

季刊

じぱ

Japan Intellectual Property Association

Special INTERVIEW

田中 稔一

日本知的財産協会 会長
三井化学株式会社 相談役

近藤 健治

日本知的財産協会 理事長
トヨタ自動車株式会社 知的財産部 部長

わが社のこだわり

マツダ株式会社

情熱の『赤』 ソウルレッド

ZOOM UP PROJECT アジア戦略プロジェクト

JIPA通信 研修紹介

創刊号



SPRING
2017
VOL.1

本誌創刊にあたり、田中会長、近藤理事長に
JIPAと「季刊じば」への思いをうかがった。

【田中会長インタビュー】

「季刊じば」の創刊は、私がお願いしたことが契機になった、と聞きました。

実は、日本知的財産協会の会長をお引き受けてから知財の記事や文章に自然に目がゆくようになり、社長時代にもう少し知財を勉強しておけばよかったなあ(笑)とあらためて思ったりしました。毎月発行される「知財管理」誌は、読者の想定がどうも専門家中心のようなので、もっと気軽にJIPAの活動を紹介できるメディアがあれば専門家以外の人たちのJIPAや知財への興味も増すのではないのでしょうか。JIPAは経営にとって重要な知財活動を行うとともに世界に貢献する活動をたくさん行っており、その中で、企業経営者の皆さんを含め周囲から継続して協力を得るには、理解しやすく印象的な紹介が必要です。

JIPAの会長を2年近くつとめています。WIPOのフランシス・ガリさん(事務局長)とも3度お会いすることができ、さらに英独仏やインドの特許庁長官がJIPAの事務所を訪問するたびに、ご

挨拶とともに大変楽しく会話をする機会をいただきました。JIPAのスローガンにある「世界から期待され」ている実感をもった次第です。これからもJIPAは「世界をリードする」意見を発信していきます。皆さんにもぜひご参加していただき、世界から期待される体験をしていただければと思います。

【近藤理事長インタビュー】

JIPAの楽しさ

◆ ◆ ◆
昨年の総会で理事長に就任した近藤です。理事長は普通、理事会活動中心なのですが、JIPAの様々な活動の現場を一度は経験してみたいと思い、東西部会や2つの地方協議会、8つある業種別部会など多くの活動に参加してきました。講演をすることもありましたが、乾杯の挨拶だけというのもありました。乾杯の挨拶としては少々長すぎたかもしれませんが(笑)。現場では多くの新しい友人ができ、その活動に触れていると、JIPA参加のメリットをあらためて感じました。

JIPAのスタートは78年前まで遡りますが、当時の日

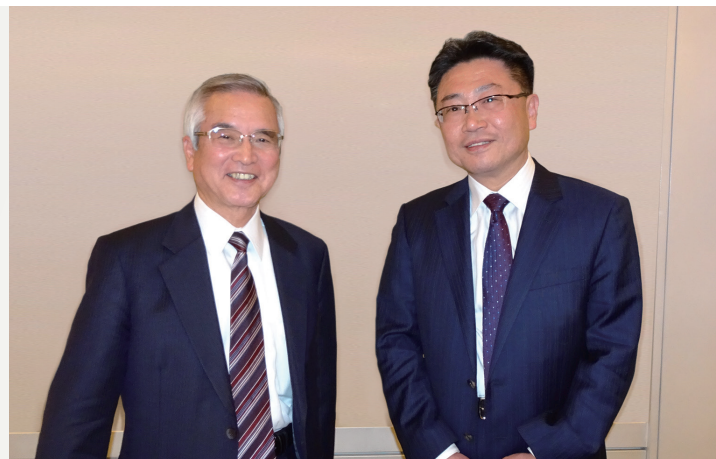


Special INTERVIEW No.001

知財＝ツールは使い方次第 第4次産業革命の今こそ JIPAのネットワークが役に立つ

田中 稔一 Toshikazu Tanaka (写真左)
日本知的財産協会 会長／三井化学株式会社 相談役

近藤 健治 Kenji Kondo (同右)
日本知的財産協会 理事長／トヨタ自動車株式会社 知的財産部 部長



本企業10社の知財担当者たちが企業の垣根を超えて知財に関する情報交換や勉強会を行い、自社のグローバル競争に役立てようとしたものですが、それから会員はどんどん拡大して今に至っています。今、日本企業約1000社が正会員になっていますが、そこでの交流にJIPAの楽しさがあります。自分の知財の勉強だけでなく、ライバル企業や他業種で知財を仕事にしている人たちと知財という共通言語で会話が弾む、そのような交流の現場である各種部会がJIPAの楽しさの原点にあるように思います。

大変革時代に知財をどう使うか

そして、時代はいま「第4次産業革命」に直面しています。今年1月のJIPAシンポジウムは、正面からそのテーマを取り上げ、JIPAの業種横断の特色を生かした各業種代表ともいえるパネラーを揃えたパネルディスカッションを行いました。申し込みが1400人を超えたのは今回が初めてです。世界の産業が大変革時代を迎えるこのタイミングで、JIPAの果たすべき役割はとて大きいと思います。JIPAの会員による特許出願件数は、日本全体の8割にま

でなりまます。実質的に日本の知財の権利者の最大の集まりであることを考えると、我々が知財というツールをうまく使えば使うほど、グローバル競争で有利なポジションを手中にすることが可能になります。そのためにJIPAで勉強し国内外の企業との交流を深めながら、最新の知識、情報をもつて日本企業が第4次産業革命に対応していければと思います。

強い知財のためのJIPA活動

どんなビジネスでも、知財の理解は大切です。それは自社の強みは何か、利益を得る源泉は何かを考えると必ず知財に行き着くからです。それをもっと強くするには、と考えた時、JIPAが提供する様々な情報が皆さんのお役に立てることはとても大きいと思います。「季刊じば」では、現在の会員と同時に新しく入会したいと考えている企業に、親しみやすくヒントになるような情報を提供していきます。より多くの日本企業がJIPA活動に参加することにより知財活動はより活発化し、日本企業は有利になります。「季刊じば」の創刊に際し、理事長として思いを述べさせていただきましたが、会員企業の皆さまの一層のご発展を祈念いたします。

わが社のこだわり [マツダ株式会社]

情熱の『赤』 ソウルレッド

素利 孝久 Takahisa Sori

日本知的財産協会 副会長
マツダ株式会社 特別顧問

「季刊じば」創刊号の「わが社のこだわり」にマツダの記事を載せることができたことを光栄に思っています。東西部会では「広島を世界の歓びに」と題して、弊社の取り組みについてお話をさせていただく機会がありました。今回はマツダの「赤」に焦点を当てた記事となります。マツダのこだわりである「赤」の更なる進化に向け、当時開発のトップとして陣頭指揮していた立場上、大きな挑戦でした。結果としてソウルレッドはお客から高い評価を得ることができ、また、新たな進化を遂げていることに誇りを感じています。新たな技術を生み出すことの大変さや素晴らしさをこの季刊誌を通じて伝えることで、JIPA会員企業の皆様がモノづくり&知財活動をさらに発展させていくきっかけとなることを切に望んでいます。

クルマづくりへの情熱を「赤」へ

広島は、モノづくりの起源でもある「たたら製鉄の火」、「厳島神社の鳥居」、「県木のもみじ」と赤にとってもゆかりのある県です。その広島に本社のあるマツダは、熱意と信念と飽くなき挑戦魂を持って、日々クルマづくりに取り組んでいます。情熱的でアクティブなイメージがある「赤」。マツダは、クルマづくりへの熱い想いを表現する色として「赤」にとことんこだわっています。

進化する赤

2013年、新型アテンザで初めて採用した新色「ソウルレッドプレミアムメタリック」。まるで太陽のように内からエネルギーを放散する、世界でもっともエモーショナルな「赤」を追求して開発した色です。塗料粒子、アルミの並び方など、何百ものサンプルで検討を重ねることで誕生したこれまでにない「赤」です。

更なる進化へ

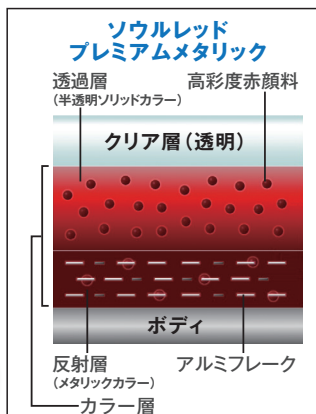
2016年12月に発表した、新型「マツダ CX-5」に初採用した「ソウルレッドクリスタルメタリック」(写真上)。生命感溢れるエネルギーな強さと鮮やかさ、濁りのない深みと艶感をより高い次元で両立させたソウルレッドプレミアムメタリックを進化させた新色です。

見て感じる赤

モータースポーツではナショナルカラーを使ったりしますので、イタリアの車は赤をベースにすることが多いようです。その赤にはいくつもの種類があります。各メーカーのブランドを表現する赤です。マツダの赤も、マツダらしい、マツダしか表現できないこだわりの赤というのを追求しました。

でも、色彩の商標出願には、なじまないかもしれません。それは、車という現物を見ることで初めて感じる赤だからです。書類(写真)では表現しきれない赤ですので、テストピースが出願書類として可能となれば真剣に検討しようと思います。

街にマツダの赤がたくさん走っていると、著名性が高まり、法制度も変わるかもしれません。皆さん、どんどんマツダの赤に乗ってください！



受け継がれた「赤」への想い

マツダは、赤の「ファミリア」、「コスモ」、「ロードスター」、「RX-8」等歴史の節目節目で「赤いクルマ」を投入し、おかげさまで市場で高い評価を得ることができました。

その後、「Kabura」などのコンセプトカーで、究極の「赤」を追求し、挑戦を重ねてきました。

広島東洋カーブのヘルメット

広島東洋カーブのヘルメットは、「ソウルレッドプレミアムメタリック」をイメージした特別色なのです。

広島東洋カーブの情熱や闘志を表すチームカラーの赤とイメージが合致したことで実現しました。

白髪 信一 Shinichi Shiraga

日本知的財産協会 常務理事
マツダ株式会社 知的財産部 部長

アジア戦略プロジェクト

小園 健一
Kenichi Osonoe

日本知的財産協会 アジア戦略プロジェクト リーダー
株式会社バンダイ 法務・知的財産部 リーガルフェロー

JIPAの組織の1つであるプロジェクトは、中期的な課題を集中的に対応するためのものです。これは委員会が特定の専門テーマを継続的に研究することと異なり、プロジェクトは特定の目的をもって活動し目的の終了により解散します。

アジア戦略プロジェクトは、中国、韓国、台湾、フィリピン、ベトナム、タイ、インドなどのアジアの国々からドバイに至るまでの広範囲の知財問題全般を扱います。特許や意匠といった権利別の研究ではなく、知財制度や運用をオールラウンドにみて各国政府に意見をいうことが主な活動です。

国際知的財産保護フォーラム(IIPPF)を通じた活動もその1つです。IIPPFは、模倣品・海賊版等の海外における知的財産権侵害問題の解決を求める日本の民間団体で、その中国プロジェクトチームの幹事をJIPAのアジア戦略プロジェクト



中国海関総署訪問
真摯で建設的な意見交換



インド商工省(デリー)
「Make in India」のライオンの前で

トが担当しておりまして、IIPPFによる中国政府への建議活動はJIPAが中心になって進めています。

2016年10月に官民合同訪中代表団(実務レベル・北京)の団長として5つの中国政府機関を訪問しました。中国政府は、2020年までに世界水準の知財強国建設の基礎固めをすると2015年末に宣言しており、2016年3月より汪洋副総理が中心になって、厳格な知財保護(模倣品の削減)の実施と知財の創造・活用

を強力に促進しようとしています。我々の訪問の際にも、我々が提示した模倣品対策に関連する課題について、一緒に解決策を導き出そうとする姿勢が中国政府の対応から感じられました。

私もアジア戦略プロジェクトを担当して結構長いのですが(笑)、今後、中国政府の動きに大いに注目すると共に、JIPA要望をタイムリーに提案することを通じて中国政府が目指す知財強国建設に貢献したいと思います。

【参加企業】 本田技研工業株式会社、三菱レイヨン株式会社、武田薬品工業株式会社、株式会社東芝、YKK株式会社、大王製紙株式会社

JIPA通信 研修紹介

グローバル人材を育てるために、知財担当者向けだけでなく初心者や技術者向けにも数多くの研修(Fコース、Wコース)を開催しています。今年度はグローバルコース(Wコース)を見直し、リニューアルしました。新設の中国WC1研修は中国の知的財産全般を理解できる中級コースで、中国WC21研修は知的財産の活用と実務を理解できる上級コースです。中国ビジネスにおいて留意すべき事項を学ぶことができ、特にお薦めです。

JIPAでは今後も時代の変化やニーズにマッチした研修を提供し、日本の人材育成に寄与していきます。



F2コース受講風景 ワシントンD.C.

表紙の写真は…

「power and beauty」

株式会社村田製作所 知的財産部 平 浩明

表紙の建物は関西電力(株)の蹴上発電所(京都府左京区)です。琵琶湖疏水を利用した日本初の事業用水力発電所で、1891年に運転を開始し、現在でも現役だそうです。昨年9月に産業発展への貢献が評価されて、IEEEマイルストーンに認定されました。その貢献も素晴らしいですが、外観もなかなかのものですよね。今ではこのような美しいレンガ造りの発電所は建てられないのではないのでしょうか。疎水沿いに植えられた満開の桜との競演は実に見ごたえがあります。

本誌では、表紙写真を募集しています。テーマは季節感があり、できれば技術、特許、知財に関連があるもの。写真と説明文を会誌広報グループ kikanshi@jipa.or.jp宛てにお送りください。また、「わが社のこだわり」のほか、ぜひ取り上げて欲しいというテーマがあれば、お気軽にご連絡ください。

季刊じば Vol.1
SPRING 2017
2017年4月15日発行

編集人: 一般社団法人 日本知的財産協会 会誌広報委員会
発行人: 一般社団法人 日本知的財産協会内 久慈 直登
<http://www.jipa.or.jp/>
印刷&DTP: NPC 日本印刷株式会社